

昭和61年度・北海道に発生した森林害虫

北海道森林昆虫談話会

(1987.5.18 受理)

はじめに

北海道林務部、北海道営林局、道内各営林支局、北海道林木育種場、そのほか山林所有者からの害虫同定依頼、被害報告、それに北海道立林業試験場、林業試験場北海道支場の調査をもとにして、昭和61年度に、北海道に発生した森林害虫の発生状況を北海道森林保護会議（昭和62年3月6～7日開催、第22回北海道森林昆虫談話会）でとりまとめた。統計の取りかたは前回と同様で、過去に北海道で森林害虫として取り上げられたことのあるもののリストを上げ、当該年度に発生があったか否かを確認した。その種数は94種ですべてについて発生地域、被害程度を記載した。特に注意して観察しなかった種は観察していない旨を記載し、発生しなかった種と区別した。新害虫、今年の害虫の動向、来年被害の予想される害虫については次に解説した。

新害虫

新害虫として1種が上げられた。幼虫がミズナラの葉を食害するハバチで、種名は *Apethymus quercivorus* TOGASHI, 和名をミズナラハバチとする。このハバチは卵越冬とみられ、成虫は9月上旬に羽化する。食害の最盛期は羊ヶ丘では6月上旬・中旬である。成熟した幼虫は体色は暗い緑色で体表面に白い粉をふいており、体を丸める習性がある。

新害虫とはいえないが従来ヒメカラマツハバチと称してきたものが別種であることが判明したので、これをミスジヒメカラマツハバチと称することとした。東北地方のものも同一種と思われる。

61年度の害虫の発生動向

ハバチ類の発生は去年と同様に続いている。カラマツハラアカハバチの穂別と置戸の密度は10頭1㎡程度で、8月に羽化をし、他の地域とほぼ同

様の羽化期であった。道立林試で62年度もこのハバチの天敵の導入を行う予定である。由仁町で大発生したオオアカズヒラタハバチは60年は土中で休眠中で被害の発生はなかった。61年は75～80%のものが羽化し、このため一部で全葉が完全に食害された木が発生した。59年の被害木で枯れたものが数本認められた。佐呂間町ではほとんど毎年発生しているようで今年も食害がみられた。大雪山のヒラタハバチは被害域が多少拡大した。初期に被害を受けた区域は枯損がかなり進行している。新害虫ミスナラハバチは支場実験林のほか、光珠内でもミスナラの葉を丸坊主にするような被害がみられた。浦河林務署部内でのエゾマツハバチの被害は大きくならなかったが、この地域以外にも様似町、野幌、広島町、支場実験林で分布が確認された。トウヒ類のヒラタハバチ科のハバチは今年も散見されたが、大発生になるといったことはないものとみられる。シラカンバのコンボウハバチの一種は局所的に今年も発生した。59年度から発生しているミスジヒメカラマツハバチ（従来ヒメカラマツハバチと称していた）は今年も広い地域で発生し、かなりの面積が加害された。天敵が比較的少なく分布は拡大する見通しである。前年大雪のダケカンバに発生したハバチ幼虫を土中で越冬させたが、成虫が発生しなかった。

マイマイガの密度は前年からかなり高くなっている。前年1か所であった激害地が数か所にふえており、62年に大発生が予想される。道林務部によって卵塊密度調査が実施され、赤井川・余市等では1000卵塊/100本以上の密度となっている。東大の北海道演習林のマツカレハは激害地のストロークが伐採された。今年秋の周辺の密度は200頭/本程度とのことである。洞爺湖周辺のセグロシャチホコは終息した。カラマツイトヒキハマキは上川、網走地方で発生した。上記のミスジヒメカラマツハバチと被害が混じっている地域もある。クワゴマダラヒトリの長沼町周辺の防風林での発生

は続いており、被害面積は広がっている。モミコスジオビハマキは余市で認められた。前年終息したとしていたコメツガクチブサガは当別・厚田でまだかなりの被害があり、一部のトドマツで梢端がほうき状を呈しているものもみられた。

前年かなりめだつたニレノミゾウムシは今年はまったく被害がなかった。

穿孔性の甲虫類で目だったものはなかった。

イチイの枯れが6月以降に目だったが、原因は不明であった(病害の観点からも調査された)。木の大きさはまちまちで庭木の盆栽から天然林の樹高10mのものまで枯れがみられた。この症状が見られたのは道南の函館付近以外の北海道のほぼ全域であった。吉田が林試東北支場に問い合わせたところ東北地方では見られなかったという回答を得た。

62年度発生の予想される害虫

次の害虫の発生が予想される。

マイマイガ、ミスジヒメカラマツハバチ、オオアカズヒラタハバチ、タカネヒラタハバチ。

特にマイマイガはシラカンバ、カラマツ、カシワ等の林で全葉が食害されるといった被害が予想される。

昭和61年1～12月に発表された関係文献

- 1) 秋田米治：越冬あけにトラップで捕獲されたクモ類について、日林北支論 34：109～111
- 2) 有沢 浩・芝野伸策・井口和信・仁原勝男・大田重之古田公人：北海道のストローブマツ林に大発生したマツカレハ(予報)、97回日林論、493～494
- 3) 福山研二：解説 林木を加害するハバチ類(6) マツノキハバチ、森林防疫 35(6)：19～20
- 4) ————：解説 林木を加害するハバチ類(8) ポプラハバチ、森林防疫 35(8)：18～19
- 5) ————：解説 林木を加害するハバチ類(10) エゾマツハバチ、森林防疫 35(10)：18～19
- 6) ————：解説 林木を加害するハバチ類(12) オウトウナメクジハバチ、森林防疫、35(12)：15～16
- 7) ————・東浦康友：ツガカレハ越冬幼虫密度変動と寄生性天敵類 30回応動昆講
- 8) 船越三郎・小川 隆：トウヒ属造林地におけるヤツバキクイムシの発生、北海道大学演習林 試験年報1985：26～27

- 9) 原 秀穂・北川善一：カラマツを食害するハバチ幼虫の見分け方、光珠内季報64：21～23
- 10) 東浦康友：産卵場所選択におよぼす変動環境の効果、60年度応動昆北海道支部講、5。
- 11) 鎌田直人：The role of non-disposers in the population dynamics of *Adelges japonicus* MONZEN (Hemiptera : Adelgidae) in an Ezo-Spruce plantation 応動昆、21(2)：353～355
- 12) 雁田邦康・信田正治・今野 博：今金町におけるオオトラカミキリの被害状況、森林保護 193：19～21
- 13) 小泉 力：森林害虫の発生予知をめざして～発生情報の収集・記録と解析～、林試場報 263：2～4
- 14) 駒井古実：北海道における針葉樹の球果・新梢を食害するツマクロテンヒメハマキについて、応動昆 30(4)：219～224
- 15) 前藤 薫・吉田成章：オオアカズヒラタハバチ潜土幼虫の夏期死亡と分布、日林北支論 34：112～114
- 16) 宮津直倫・鈴木重孝：ミスジツマキリエダシヤクの生態と防除、北方林業 38(6)：5～8
- 17) ————：ミスジツマキリエダシヤクの薬剤防除について、60年度林業技術研究発表論、142～143
- 18) 沼崎忠幸・鈴木重孝：カラマツヤツバキクイムシの穿孔時におけるMEP剤の殺虫効果、森林防疫 35(9)：7～9
- 19) ————：カラマツヤツバキクイムシの薬剤による致死効果、60年度林業技術研究発表論、148～149
- 20) 吉田成章：ヤツバキクイムシ、林業と薬剤 90：1～9
- 21) ————：解説 林木を加害するハバチ類(1) カラマツハラアカハバチ、森林防疫 35(1)：17～18
- 22) ————：トウヒハバチの生活史と生態について、日林北支論 34：115～117
- 23) ————：解説 林木を加害するハバチ類(3) カラマツキハラハバチ、森林防疫 35(3)：15～16
- 24) ————・佐々木克彦・中津 篤：第1回北海道森林保護会議報告、森林保護 192：14～16
- 25) ————：Pneromoneでエゾマツの害虫、ヤツバキクイムシを誘殺 林試場報 261：7
- 26) ————：解説 林木を加害するハバチ類(5) マツノミドリハバチ 森林防疫 35(5)：19～20
- 27) ————・鈴木重孝：今年度発生の予想される害虫、森林保護 193：24
- 28) ————：解説 林木を加害するハバチ類(7) オオアカズヒラタハバチ 森林防疫 35(7)：16～17

- 29) ————：解説 林木を加害するハバチ類(9) シラカ
バノクロボシハムグリハバチ 森林防疫 35(9)：17~18
- 30) ————・佐々木克彦・中津 篤：昭和61年度北海道
森林保護事業推進協議会(第8回)開かる 森林保護 195
：35~38
- 31) ————・秋田米治・小泉 力・福山研治：風倒地で
のフェロモンによるヤツバキクイムシの誘殺 60年度林
試北支年報, 54~55
- 32) ————：解説 林木を加害するハバチ類(11) トウ
ヒハバチ 森林防疫 35(11)：15~16

表一 昭和61年度森林害虫発生状況

特定害虫 (統計方法が面積として確立している害虫)

害虫名	所管	61年度防除面積(ha)	発生面積(ha)	備考
トドマツオオアブラムシ	北海道局	1107.00	2015.00	
	函館支局	138.00	308.00	
	旭川支局	31.84	275.39	
	帯広支局		14.00	
	北見支局			
	道有林	609.32	646.44	
	民有林	510.16	638.04	
合計	2396.32	3896.87		
エゾマツオオアブラムシ	北海道局	746.00	972.00	
	函館支局		2.00	
	旭川支局	45.60	178.04	
	帯広支局	88.00	415.00	
	北見支局			
	道有林	971.04	981.44	
	民有林	173.80	223.54	
合計	2024.44	2772.02		

吸汁性害虫

害虫名	観察・情報収集メモ	被害等メモ	地域
トドマツノハダニ	ほとんどみられなかった。		
スギノハダニ	観察していない。		
スギマルカイガラムシ	庭園樹, 生け垣等に散発。比較的多い。		函館市, 七飯町
マツワタアブラムシ	ほとんどみられなかった。		
トドノネオオワタムシ	ほとんどみられなかった。		
ハネナガオオアブラムシ	ほとんどみられなかった。		
クリオオアブラムシ	各地でみられた。クリ園, 庭園樹, 並木等で普通にみられる。ぼう芽林に多い。		

虫えい形成害虫

エゾマツカサアブラムシ	各地でみられた。		
ヒメカサアブラムシ	各地でみられた。		
キタマツカサアブラムシ	すこしあった。		
トドマツノタマバエ	一部でみられた。	トドマツ4~5齢級	登別, 八雲町(10.08ha)
マツバノタマバエ	一部でみられた。	砂坂海岸林での被害は微, 函館公園のクロマツ, 松前地方の海岸防風林(0.1ha)	
スギタマバエ	観察していない。		
エゾマツノシントメタマバエ	一部でみられた。	支場実験林のアカエゾの被害あり。	
クリタマバチ	一部でみられた。	栽培クリで少量発生	七飯, 余市, 松前
カシワハナフシ	一部でみられた。	被害はほとんどなし。	駒が岳山麓の東山地区でカシワ, ナラ混交林

食葉性害虫

カラマツハラアカハバチ	一部でみられた。	森地方での被害は終了、平取町(419ha)、門別町(42ha)、穂別町(18ha)、置戸(2ha)
マツノミドリハバチ	一部でみられた。	支場実験林内のハイマツで観察、大発生の兆?
オオアカズヒラタハバチ	由仁担当区区内(9ha)では隔年発生が今年あり被害も拡大し、数本のエゾマツが枯れた。	厚真町、三笠町(シンバク)
カラマツキハラハバチ	一部でみられた。	被害の増加はない。
エゾマツハバチ	一部でみられた。	シュートの枯れ。浦河(68ha)、江別(2.08ha)、様似(1.20ha)、北広島
ポブラハバチ	札幌周辺では全く見られない、道南では一部でみられた。	
オウトウナメクジハバチ	庭園樹等には被害は少なくなった。(59年度にかなりの被害)	
シラカバノクロボシハムグリハバチ	一部でみられた。	函館周辺では減少 支場苗畑
ミスジヒメカラマツハバチ	広い地域でみられた。	林全体が黄褐色になる。 道局(栗山・夕張)(990.00ha)、道有林(浦幌)(294.24ha)、民有林(早来、穂別、日高、平取、浦幌、更別、土幌、上土幌、帯広、中札内村、広尾、大樹、忠類)(5390.42ha)、計6674.66ha
トウヒハバチ	一部でみられた。	支場実験林
タカネヒラタハバチ	一部でみられた。	かなりのハイマツが枯れた。大雪高根原
ニセポブラハバチ	ほとんどみられなかった。	
カラマツイトヒキハマキ	広い範囲でみられた。	カラマツ林全体が黄変 道局(芦別、赤平)(198.00ha)、旭川局(旭川)(26.43ha)、北見局(置戸、端野、常呂)(129.97ha)、民有林(厚真、岩見沢、旭川、留萌、名寄、下川、富良野、北見等26市町村)(9018.23ha)、道有林(民有林と同様の地方で11市町)(1222.84ha)、一部でマイマイガ、ミスジヒメカラマツハバチとの混発生がみられる。計10595.47ha
カラマツヒメハマキ	一部でみられた。	九大演習林
モミコスジオビハマキ	一部でみられた。	トドマツの新梢が伸び初めに食害され垂れ下がる。 当別・厚田(90.00ha)、旭川(87.0ha)
マツヒメハマキ	観察していない。	
トドマツアミメヒメハマキ	観察していない。	
トウヒツヅリハマキ	観察していない。	
マツアトキハマキ	札幌ではほとんどみられなかった。函館近郊では従来よりかなり減少	
ドイツトウヒマダラメイガ	一部でみられた。	庭園のビャクシン等 札幌、岩見沢
マエアカスカシノメイガ	一部でみられた。	前年までまったくみなかったが本年支場構内で散見
オオクシヒゲシマメイガ	観察していない。	
コメツガクチブサガ	一部でみられた。	前年終息宣言をしたが、厚田では被害が続いていた。トドマツの新梢の枯れがみられた。厚田(19.00ha)
ミスジツマキリエダシャク	観察していない。	
オオトビスジエダシャク	観察していない。	
チャバネフユエダシャク	ナミスジフユナミシヤク等の食葉性が類とともに広い地域で被害がみられた。	面積の報告は由仁(8.00ha)、苫小牧(100.00ha)
オオチャバネフユエダシャク	ほとんどみられなかった。	
ナミスジフユナミシヤク	チャバネフユエダシャクと混在	
ヤナギドクガ	ほとんどみられなかった。	
キアシドクガ	ほとんどみられなかった。	
マイマイガ	広い地域でみられた。	前年1か所であった激害地が数カ所に増えており、大発生の兆候がみられる。 道有林(三笠・岩見沢3件)(330.72ha)、民有林(鶴川、早来、岩見沢、芦別、富良野等の12市町で14件。岩見沢では防除(8.2ha))(234.55ha)、計565.27ha
ノンネマイマイ	一部でみられた。	密度は低い。
セグロシャチホコ	ほとんどみられなかった。	
ブナアオシャチホコ	観察したがほとんどみられなかった。	
ツガカレハ	特に密度が高くなっているとは考えられないが、一部で観察された。	東藻琴(カラマツ・トドマツ)(10.8ha)、美幌町(10.18ha)

マツカレハ	各地でみられた。	ではカラマツ伐採直後に植栽されたトドマツに被害
オビカレハ	ほとんどみられなかった。前年よりも少なくなった。	富良野, 駒が岳山麓(20ha), 森, 七飯, 函館
キバネセセリ	わずかにいるが被害につながるほどではない。	支場実験林
コウモリガ	観察していない。	
クワゴマダラヒトリ	一部でみられた。	長沼付近の防風林では前年と同様のヤマグワの被害がみられており, 終息の気配はない。 長沼, 留萌
カラマツツツミノガ	一部でみられた。	木古内(16.0ha)
オオスジコガネ	ほとんどみられなかった。	
スジコガネ	ほとんどみられなかった。	
ハンノキハムシ	一部地域で見られた。	チャバネフユエダシャクとともに発生, 支場実験林のコバハンノキで枯れが発生した。 清水町(2ha), 白老, 室蘭, 新得, 日高, 十勝
ドロノキハムシ	すこしあった。	白老, 室蘭, 新得
イタヤハムシ	チャバネフユエダシャクに混じていた。	
ハラダチョッキリ	観察していない。	
アカタマゾウムシ	長沼町防風林では殆ど被害はなくなった。	
ニレノミゾウムシ	みられなかった。	

新梢・球果穿入害虫

カラマツタネバエ	観察していない。	
マツトビマダラシンムシ	観察していない。	
マツツマアカシンムシ	観察していない。	
マツノシンマダラメイガ	一部でみられた。	新冠, 門別
マツノマダラメイガ	観察していない。	
ツマクロテンヒメハマキ	観察していない。	

根部害虫(主に苗畑対象)

ヒメコガネ	観察していない。	
ナガチャコガネ	一部でみられた。	オンコの庭園木で。
オオスジコガネ	観察していない。	
スジコガネ	一部でみられた。	えりも(民間苗畑)
エゾマツノメイガ	観察していない。	

穿孔性害虫

オオトラカミキリ	一部でみられた。	厚沢部町(0.3ha), 檜山地方
シラフヨツボシヒゲナガカミリ	観察していない。	
スギノアカネトラカミキリ	道南のスギ林ではかなりあるとみられる。道立林試道南支場の調査では被害本数率で6%程度。松前では齢級の高いもので多い。	
センノキカミキリ	観察していない。	
マルクビヒラタカミキリ	一部でみられた。	興部
シラカバナガタマムシ	一部でみられた。	士別(53.13ha)
ヤツバキクイムシ	道有林(訓子府, 津別)(112.32ha) 伐倒搬出, 北見局(小清水)(74.0ha)	
カラマツヤツバキクイムシ	道有林(美幌)(1.12ha) 伐採搬出, 民有林(西興部, 津別, 美幌)(6.51ha) 薬剤防除(3.64ha) 一部伐倒搬出, 新得(50本)	
マツキボシゾウムシ	観察していない。	
トドマツキボシゾウムシ	観察していない。	
ヤナギシリジロゾウムシ	観察していない。	
カラマツコククイムシ	一部でみられた。	トドマツの新植, 道局(浜益)(5.0ha), 民有林(様似)(12.28ha)
トドマツノククイムシ	一部でみられた。	興部(道有林)
ヤチダモノナガクイムシ	観察していない。	

トドマツノキバチ	観察していない。
ヒゲジロキバチ	観察していない。
コルリキバチ	観察していない。

新 害 虫

上記以外でかなりの被害を与え森林害虫として登録すべきもの

害 虫 名	加 害 樹 種	生 態 等	地 域
ミズナラハバチ (ミスジヒメカラマツハバチ：従来ヒメカラマツハバチとしていたもの)	ミズナラ	6月上旬ミズナラ葉を幼虫が食害	札幌・美唄

61年度に被害の目だった害虫

害 虫 名	加 害 樹 種	地 域	備 考
マイマイガ オオアカズヒラタハバチ	カラマツ、カシワ エゾマツ、アカエゾマツ、 ヨーロッパトウヒ	日高、胆振、空知 由仁周辺、厚真、佐呂間	佐呂間は主なる発生の年 ではなかった。
ミスジヒメカラマツハバチ タカネヒラタハバチ 広葉樹のシャクガ類 トドマツノタマバエ	ハイマツ 広葉樹 トドマツ	道央、道東 大雪 道央 室蘭一森	

表-2 62年度に被害の予想される害虫

62年度大発生なり、被害があると思われる害虫を予測した。

害 虫 名	地 域	理由・生態の特徴等
マイマイガ オオアカズヒラタハバチ	日高、胆振、空知を中心 由仁周辺、厚真、佐呂間	激害地が出始めて3年目である。 分布拡大のスピードはそれほど早くないが、エゾ、ア カエゾで枯損がおこる。
ミスジヒメカラマツハバチ タカネヒラタハバチ トドマツノタマバエ	道央、道東 大雪 苫小牧周辺一森の大平洋岸	天敵の寄生が少ない。 分布の拡大は遅いが、天敵が少ない。

(林試北海道支場 吉田成章記)